

2年前の地震で
北海道胆振東部地震が発生したとき、町会・自治会では会員の安否や家屋の状態を確認するための見回り、発電機を稼働させて携帯電話の充電などを行いました。町会会館などで携帯電話の充電は、多いところでは40から50人ほどが利用しました。

2年前の地震で



岩見沢市町会連合会 会長
千葉 修 さん

市内の町会・自治会を束ねる、町会連合会の会長さんに話を聞きました



※写真撮影時のみマスクを外してもらっています。



※写真は昨年度のものです。

私も町内の被害状況を確認するために車で見回ったほか、安否確認の際に懐中電灯の電池を提供しました。

地震から得た教訓

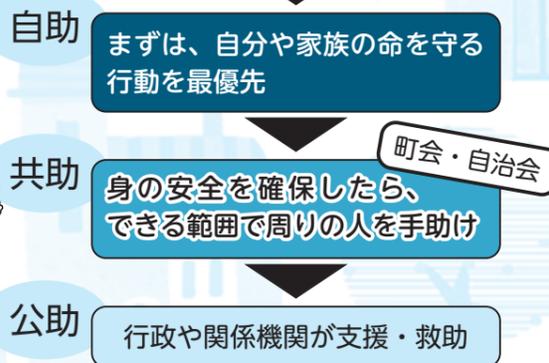
地震の被害が落ち着いてから、多くの町会・自治会から「発電機が欲しい」という意見があり、市に要望を出しました。その後、市から希望する町会・自治会にポータブル発電機が貸し出されました。現在は半数以上の町会・自治会にポータブル発電機があります。

また、地震をきっかけに町会・自治会のコミュニティや横のつながりの大切さを実感したという声を多く聞きました。近所の人との普段からの付き合いが、いざというときに力を発揮するのだと思います。



ポータブル発電機

災害発生



共に助け合う

災害が起きたときの行動には、自分の身は自分で守る「自助」、できる範囲で周りの人と助け合う「共助」、行政が支援や救助を行う「公助」という考え方があります。共助では、災害などの緊急時に少しでも早く多くの人が助かるように、地域で行動することが大切です。地震のときに町会・自治会で見回り



いちばん身近な絆



町会連合会の会長が
出演して説明します
10月9日(金) 午後5時40分

平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震から2年が経ちました。当時、停電などの不安な生活の中で、地域のつながりの大切さを実感した方も多いのではないのでしょうか。そんなときにみんなで助け合うため活躍した、私たちの一番身近なコミュニティである町会・自治会が担う役割を紹介します。現在は、新型コロナウイルスの影響でたくさんの人と会ったり交流したりすることが難しい状況ですが、改めて地域との関わりを考えてみませんか。
問合先 市民連携室

町会・自治会って？

町会・自治会は、自分たちが暮らす地域を住みやすくするためにさまざまな活動を行う自主組織です。現在、市内では217の町会・自治会が活動しています。

快適に住みやすいまちづくり

ごみ・リサイクルステーションや公園の管理、花壇の整備、地域の生活道路の排雪など、快適な生活環境をつくる活動を行っています。



安全・安心なまちづくり

街路灯の管理や防犯パトロール、交通安全運動、防災訓練、高齢者の見守り活動など、地域で安全・安心に暮らすための活動を行っています。



ふれあいの場づくり

お祭りや盆踊り、ラジオ体操などの季節のイベントや、敬老会や食事会、研修会など、会員同士の顔が見えて楽しく交流できるふれあいの場をつくっています。



行政や関係諸団体との連携

道路の整備や生活環境を良くするための提案など、住民の意見や要望を取りまとめ、行政や諸団体に提出しています。また、地域の行事や生活に身近な情報を回覧板などで提供しています。



日常生活のさまざまな場面で町会・自治会が活躍しているんだね



町会・自治会で行っている防災活動

※写真は昨年度のものです。

市民参加の防災訓練

市主催の訓練で、地域の人がさまざまな体験型の訓練に参加し、防災の知識や技能を身につけます



防災出前講座

市職員が講師となり、災害への心構えなどを学びます



うだけでもかなり違いますからね。緊急時だけでなく、どんなときでも人と人のつながりは大切なのだと思えます。

普段からの心掛けを

災害が起きたときに、町会・自治会でスムーズに助け合いをするためには、やはり普段からの近所付き合いが何よりも大切です。隣に住んでいる人の顔すら分からなかったり、いつも近所の人に会っても声をかけなかったりするのは、緊急時にいきなり助けを求めるといのは難しいです。近所の人に会ったら、まずはあいさつから始めてみてほしいと思います。顔を知っている」と

避難行動要支援者の避難支援制度

問合先 防災対策室

避難に支援が必要な人にとって、何か良い方法はないかな？



市を通して、事前にお住まいの地域の町会・自治会長や民生委員に自分の情報を提供できる制度があります

町会・自治会や民生委員は提供された情報をもとに、避難支援や安否確認の体制を整えることに役立っています

どんな人が対象なの？



高齢者や介護を受けている方、障がいのある方です

区分	対象（次のいずれかに該当する方）
高齢者	● 75歳以上の高齢者のみの世帯 ● 緊急通報サービス助成を受けている
要介護認定者	● 要介護3以上の認定を受けている
障がいのある方	● 身体障害者手帳1級・2級を持っている ● 療育手帳A判定を持っている ● 精神障害者保健福祉手帳1級を持っている

※病院や施設などに入院・入所している方は対象外。

制度の対象にはならないけど、災害時の避難に支援が必要な人はどうしたらいいの？



大丈夫！
対象にならなくても、状態によっては本人の申し出により情報を提供することができます。希望する方はお気軽にお問い合わせください

地域の人に事前に伝えておけば、避難を手伝ってもらったり安否確認に来てもらえたりするのがスムーズにできるね

制度を利用するときに気を付けることはある？



地域での助け合いが必要なので、日ごろからの近所付き合いで顔が見える関係を作っておくことが大切です

災害時には同じ地域の方も被災する可能性があり、必ずしも支援を受けられるとは限りません。できる範囲で、自分の身は自分で守れるように備えておきましょう

コロナ禍での活動

町会・自治会の活動は人と集まる機会が多いイメージですが、現在の活動はどのような状況ですか？



町会・自治会の活動は新型コロナウイルスの影響を大きく受けました。お祭りやさまざまな交流会をはじめ、多くの活動を中止せざるを得なくなり、会員同士で顔を合わせる機会が減っています。しかし、最近では感染リスクの低い活動から少しずつ始めている町会・自治会もあります。感染対策を徹底し、さまざまな工夫をしながらできる限り活動してほしいと思います。

私の町会では、体操教室や毎月の公園の草刈りなどを行っています。活動に参加している人は、みんな表情が生き生きとしていて本当に楽しそうなんです。人に会わなかったり、家でじっとしていたりするとストレスが溜まるため、町会を通して外に出て、人に会えることが息抜きになっているのだと思います。

今だからできた絆
ある町会では、以前までほとんど活動に顔を出していなかった方が、今の状況になってから活動に参加し始めたということがあったそうです。これは、町会・自治会が人と人

感染対策を徹底して 活動しています

夏休みのラジオ体操

参加者はマスクを着用し、十分に距離を取って行いました。ハンコを押す役員はフェイスシールドなどを着用し、接触がなるべく少なくなるようにしました。



花苗の植栽

参加者はマスクを着用し、できるだけ少人数で向かい合わせにならないように、間隔を空けて行いました。



室内での体操

参加者はマスクを着用し、始まる前に体温を測定・記録して、窓やドアを開けて換気をして行いました。

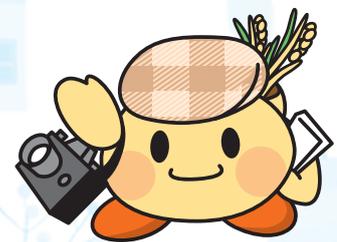


とのつながりを作る役割を果たしているということなのだと思えます。コロナ禍で人との接触が減る中、改めて町会・自治会の大切さを知って、活動に参加してもらえたのはとても嬉しいです。

地域への想い^{おも}

災害でもコロナ禍でも、近所に知り合いがいて助け合える関係があることはとても心強いですね。地域の交流の場づくりをはじめ、町会・自治会の全ての活動には、みんなが安心して快適に暮らせる地域にしたい^{おも}という想いが込められています。地域には若い人から高齢者までさまざまな人がいますが、みんなができる範囲のことで協力し合うことができます。町会連合会は、町会・自治会に入りやすい、続けやすい環境を作っています。町会連合会は、町会・自治会に入りやすい、続けやすい環境を作っています。町会連合会は、町会・自治会に入りやすい、続けやすい環境を作っています。町会連合会は、町会・自治会に入りやすい、続けやすい環境を作っています。

町会・自治会の入会方法など、詳しくは町会連合会事務局（市民連携室内）へお問い合わせください



町会・自治会は、その地域のことを一番知っている組織であると言えます。その特性を活かして、災害などの緊急時にも重要な役割を担っています。しかし、町会・自治会が力を発揮するためには、近隣の方との普段からのコミュニケーションが欠かせません。今はたくさんの方との交流は難しいかもしれませんが、気軽に話ができる人が近くにいるだけでも心強く感じられます。まずは身近なところから、地域とのつながりを見つけてみましょう。